

資料集「高知の学校資料を残す・伝える」の発行

昨年6月より、「高知県学校史資料を考える会（代表・目良裕昭、事務局長・楠瀬慶汰）」「高知県ミュージアムネットワーク（会長・筒井秀一）」「土佐清水市郷土史同好会（会長・武藤清）」などのご協力により、平成5年度から休校し、その後に廃校になった旧・大津小学校の史資料約4,000点の中浜小への移設・文献リスト化・資料写真撮影・保存をコツコツと行ってきました。

過日6月5日(土)に高知県学校史資料を考える会の目良代表・楠瀬事務局長、高知県ミュージアムネットワークから高知城歴史博物館高木翔太学芸員など3名の方々、土佐清水市教育委員会生涯学習課の田村が、残されていた資料写真撮影を撮影し終えた。

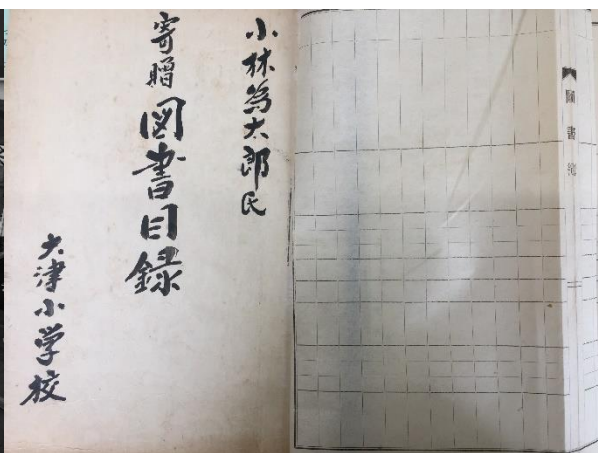
今回、『高知の学校資料を残す・伝える』と題して、高知県学校史資料を考える会が、学校資料の資料集を作成する予定です。史料集はA4版45頁で学校教職員・教育委員会事務職員を読者に想定し、個人が特定できる写真などはできるだけ使用しないようにしますが、必要な場合は黒塗り対応をしていくということです。

資料集で資料紹介する項目は、全部で52項目あり、そのうち大津小学校史資料が45項目で、それ以外の学校の物は南海中・中川内中・江川崎小・北稜中等の資料計5項目です。執筆者は、下記の方々になる予定です。

渡部 淳（高知城歴史博物館長）	目良裕昭（高知県学校史資料を考える会代表）
田村公利（土佐清水市教育委員会）	楠瀬慶汰（同会事務局長・高知新聞記者）
国畑匡基（県立歴史民俗資料館学芸員）	谷地森秀二（横倉山自然の森博物館長）

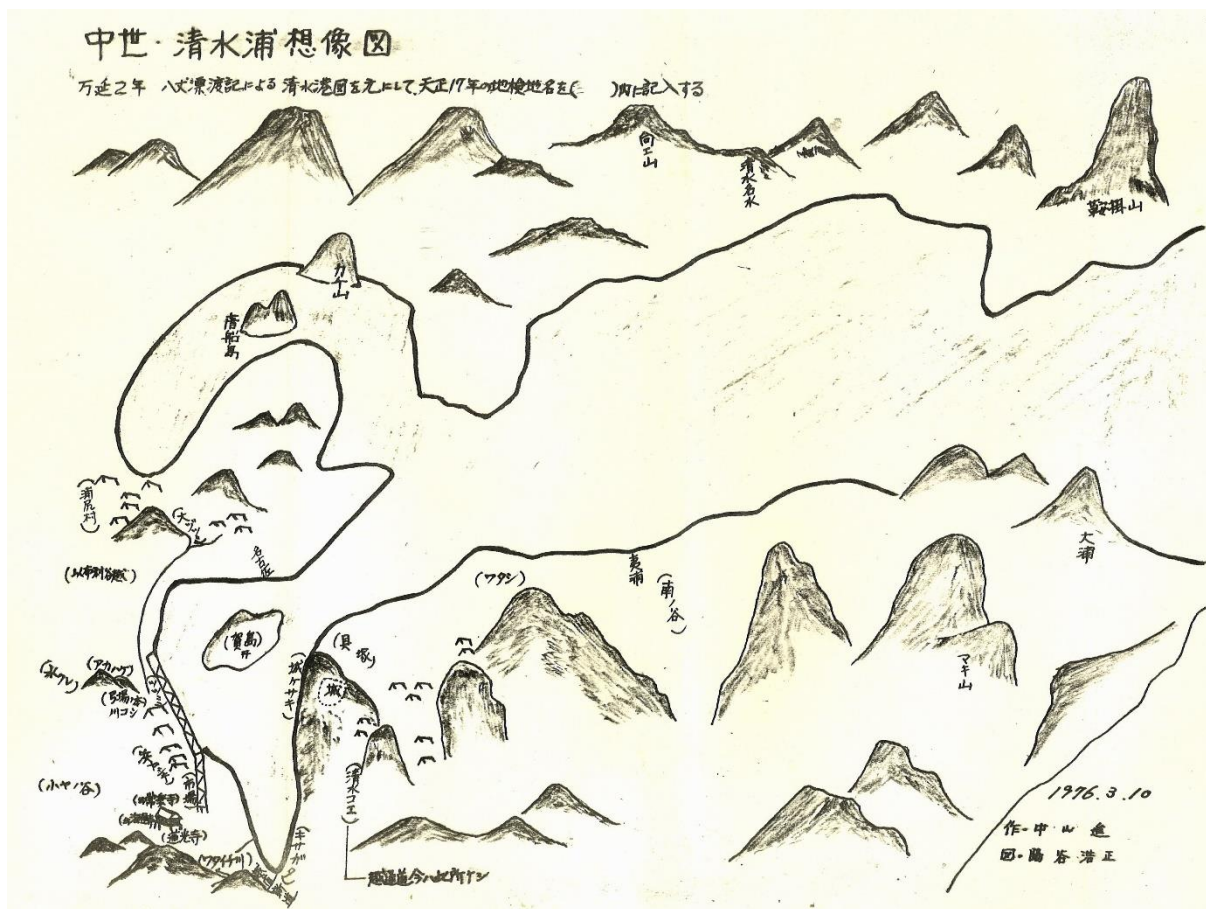


中浜小学校での資料写真撮影の様子



大津小学校小林文庫の寄贈目録

◎旧「土佐清水市史」事前調査から



↑中山進・脇谷浩正作成「中世・清水浦想像図」より

上の図は、昭和51年(1976)3月10日に中山進氏・脇谷浩正氏によって作成された「中世・清水浦想像図」である。恐らくは、昭和55年(1980)に発刊される『土佐清水市史』における資料調査を目的に作成されたものと思われる。

越浦は、描かれておらず、清水浦を中心とした図になっている。キサガタ(象瀧)が描かれており、現在の中央町・本町・栄町付近にまで入江が広がり、周辺からの水がここへ(キサカタ)へ流れ込んでいたことが分かる。そこは満潮時に海水が流れ込み、干潮時は泥土が堆積し、厚い干潟が形成されていたと思われる。貝塚の北側に丘陵があり、その山腹に山城が造られていた。この山城がいわゆる清水城であろう。丘陵地は当時「鍛冶屋駄場」と呼ばれていた。この駄場は明治40年(1907)から大正14年(1925)に至る上田亀之助の市街地造成事業で切り崩されてしまった。また、蓮光寺の下には浜屋敷が並び、海浜集落が形成されていた。現在のフラワーギフトミキからセイムスにかけての一带と思われる。旭町の丘陵地(現在の玉川商店の上)は「アカハケ」の地名が、さらにその北西部を「水クレ」と呼んでいた。

この図は、万延2年(1861)『八丈漂渡記』にあった清水港図をもとに作成されており、中世の土佐清水市街地の景観を彷彿させるものである。